

鯖江市議会・市民創世会

# 大門よしかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)52-7488 携帯090-6810-2462

## ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます  
本年もよろしくお願いいたします



元日のHABテレビより

みなさまにおかれましては、明るい新年をお迎えのことと拝察いたします。なお、旧年中は何かとご指導ご鞭撻をいただき、誠にありがとうございました。

今年の冬は寒入りしてもなお、雪がほとんど降らず、記憶にないほど暖かい日が続いています。とても有り難く楽な冬です。しかし、これも温暖化の影響だとすると、素直に喜んでいいものなのか複雑な思いです。良い事があればその分良くない事もあるかも知れません。今年一年がどうか平穏でありますようお願いばかりです。

さて、今年はSGGsの事業が具体的に動き始めます。鯖江市は女性活躍に焦点を絞っていますが、全体としてはあらゆる面から持続可能な社会を構築しなければなりません。何も特別なことではなく、食品ロスを無くし、水や食料を無駄しない。あるいはゴミの分別を丁寧にし、リサイクル率を上げる。近くなら車でなく歩いて行く。そんな事でも良いのです。

また、いよいよ東京オリンピックが開催されます。鯖江市は中国体操選手団のキャンプ地となります。市民の皆様とともにおもてなしをし、オリンピックを盛り上げると共に友好の輪を広げていきたいものです。

## 12月議会一般質問より

(鯖江市のHPで本会議録画の配信を行っています)

### 予算編成方針

#### 基本方針について

12月議会が近づきますと毎年、来年度予算編成方針が出されます。大きな政策方針の変化により、項目は変わりますが、理念として一貫して変わらないものがあります。それらについて取り上げてみました。

行政の基本は「最小の経費で最大の効果を得る」ことです。鯖江市で毎年行われている事業やイベントで費用対効果が十分に検証されているのでしょうか。

**（Q）スクラップ・アンド・ビルドが行われた事業やイベントとは。またその理由とは**

**（A）**平成30年度の事業で廃止した事業は47事業です。主なものとして「もみじまつり事業」です。600本の植樹と毎年のもみじまつりの開催により、もみじの名所としての知名度も上がったこと、また季節的に悪天候となる場合も多かったことから、まつりとしてのイベント事業は終了し、インスタグラムを使った西山公園のフォトコンテストの開催や公園周辺のライトアップ、整備などを事業として見直しました。



紅葉の頃の西山公園上段の庭

また、京セラドームでの「めがねのまちさばえDAY」開催事業も、2年間開催し、多くの方にさばえをPRすることができ

ました。おかげさまで、関西方面からのふるさと納税も以前よりは増加しており、一定の成果を上げたことから、昨年度で市の事業は終了しました。

さらに、民間企業等の資金調達を支援するためのクラウドファンディング「FAAVOさばえ」も、初期の目的は達成したと判断し、昨年度で廃止しました。

目的を達成したものや民間の力を活用できる事業などは、積極的に見直しを図っていきます。

「新規事業については、必ず事業の周期を設定するサンセット方式を採用し、その期間は、原則として3年以内とする」という方針があります。良いものは改善した上で続け、廃止すべきものは廃止するという基本姿勢は必要な考え方だと思います。

#### (Q) サンセット方式は機能しているか

**(A)** 3年前の平成28年度の新規事業は85事業ありました。現在、そのうち50事業が廃止され35事業が継続事業として実施しています。継続している事業として、マイナンバーカード交付事業など、国の制度により継続すべき事業や上下水道の包括的民間委託など市民サービス向上に関する事業、放課後児童クラブの新規開設など福祉に関する事業などです。イベントや企画的な事業については3年以内で終了し、新規事業におけるサンセット方式は適用はされているものと考えています。

また、方針の一つとして「全ての事務事業・イベントについてゼロベースで査定を行う。目的・費用対効果を説明できるよう準備し査定に臨む事」となっています。

#### (Q) ゼロベースでの査定や目的、費用対効果がどのように検証されてきたのか

**(A)** 市では、毎年、評価対象事業として約450事業について、事務事業評価を実施しています。目的や事業に対する達成度を評価し、評価されたランクに応じて事務改善や内容の拡大、縮小、廃止や休止、統合、維持などを事業ごとに次年度の方向性を示しています。

また、市民や学識経験者などから構成される行政評価委員会が、特にイベントを中心に評価をいただいています。その結果を受け、各課は予算要求するとともに、予算の査定時におき、必要な費目ごとに査定をすることで、さらに合理化や効率化ができることがないかなど、必要最低限の予算となるよう精査をしています。

**意見** イベントにおいて記念品を出す場合が多いですが、

果たして記念品が必要なのでしょうか。入場無料ならば記念品を付ける必要はないと思います。例えば、シャープペンシルとかボールペンなどは家庭に充分揃っています。必要なら気に入ったものを購入します。こんな小さなことでも経費が削減できるのではないのでしょうか。

### SDGs(エスディーゼズ)推進枠について

福井の女性は、家事、育児、介護などを担い、さらに一家の収入を補う必要に迫られ働くことが当たり前という土地柄です。そうしないと、世間に肩身が狭いという風土が福井にはあります。実態は、日々の暮らしに追われ、必死でその役割を果たしているのではないのでしょうか。

女性活躍を推進するには男女共同参画を進めて、男性が家事、育児、介護に積極的に参加する意識づけを同時並行的に進めなければならないと思います。そこを置き去りにして、女性活躍を声高に打ち上げると、さらに女性を追い込むことにならないかと懸念しています。

#### (Q) 女性が輝き、生き生きと活躍できる環境整備に関するソフト事業とは



**(A)** 女性活躍推進に向けて重要な鍵となるのは、地域や職場、家庭における男性理解と協力の促進であると考えています。具体的には、男性の家事や育児、介護等への参加促進を図るための研修会などの開催や、自己を必要以上に低く評価するインポスター症候群ゼロに向けたア

ンケート調査の分析、自己肯定感を高められるような講座の開催を予定しています。さらに、職場において休みが取りやすい環境整備の一環として、私の日プロジェクトの普及促進などの事業の推進に取り組んでいきます。女性活躍を軸に、SDGsを推進している本市の経済、社会、環境の3側面の好循環を満たすようなソフト事業を展開していきます。

環境にクローズアップした事業に対して、また、後年度負担軽減への取り組みについて重点的に予算を配分するとなっています。

#### (Q) ごみ減量化、紙の削減、クリーンエネルギーの活用によるCO<sub>2</sub>削減などの具体的な手段は

(A) 市民1人当たりのごみ排出量はやや増加傾向です。事業系ゴミが増えています。家庭ごみは年々減少している傾向です。今後は、事業系ごみの減量化を進めていく必要があると考えています。循環型社会の構築、ごみの減量化、資源化の促進、処理施設の負担軽減と経費削減、またCO<sub>2</sub>削減のためにも抜本的な施策の検討が必要だと考えています。そのためにも、ごみ問題懇話会の皆様から、期限を明確にした上でのごみ有料化を実施するようにとの意見をいただいています。

紙の削減については市内での会議や打ち合わせに、ノートパソコンの使用を推進しペーパーレス化を図っています。データの電子化を進めることにより、紙での資料保存もなくなっていきます。

クリーンエネルギーの活用は、現在、防災拠点施設である環境教育支援センター、鳥羽小学校、豊小学校には太陽光発電システムを設置しています。今後は、各施設ごとにクリーンエネルギーの導入の可否や設置の導入状況、また運用状況、エネルギー消費状況などを調査し、適用可能なクリーンエネルギーの導入について検討していきます。また、公共施設における照明をLED等の省電力照明に換えることでも、消費電力の抑制やCO<sub>2</sub>削減に一助になりますので、関係課と情報共有しながら進めていきます。

**意見** つつじまつりなどの屋外イベントの際「ごみ持ち帰り&リサイクル運動」を提案したいと思います。



大勢の人が訪れるつつじまつり

福井国体のとき、イベント会場の裏でボランティアの方々がお弁当の空を、食べ残し、燃やすごみ、紙、プラスチックに分別しリサイクルしている様子を目にしました。エコ国体を実践している姿に感心しました。

鯖江でも、年間多くの屋外イベントが開催されます。露店で売られる食品は、殆どが使い捨てのプラスチック容器に入っています。ごみ箱には大量のごみが積み上がります。全て産業廃棄物として燃やされます。そこで、来場者にリサイクルマークを印刷した小さなごみ袋を配付し「ごみ持ち帰り&

リサイクル運動」を呼びかけてどうでしょうか。鯖江市がSDGsに取り組む姿勢を市民に見せるには良い機会であると同時に、それを目にした市内の方々には、鯖江市の取り組みの本気度を感じていただけるのではないのでしょうか。きっと心ある市民は協力してくれるはず。そして、根気よく続けていけば理解も広がり、他の自治体にも影響を与えていくのではないのでしょうか。

## 強靱で安心・安全なまちの創造

### 福井豪雨について

15年前、鯖江市河和田地区を中心に豪雨が襲い、大変な被害を出しました。私が生まれ育った家は天神川のほとりです。床下浸水は何度かあったようですが、福井豪雨の時は、背の高さほどの濁流に襲われました。炎暑の中、多くのボランティアのお手伝いを得ながら、家具、家電の廃棄、泥出し作業は、大変な重労働でした。結局、1階部分は柱と梁を残しただけになりました。

近年の自然災害、とりわけ水害の頻発により、福井豪雨の被災者以外は、当時の記憶が薄れつつあるのではないのでしょうか。いま一度振り返り、その教訓がどのように生かされ、河川の改修が進んでいるのかを検証すべきであると思います。

(Q) 当時の鯖江市の被害状況と得られた教訓がどのように生かされているのか

(A) 平成16年7月18日の未明から、本市を初め、福井市、池田町、当時の美山町、今立町を中心に局地的な豪雨が襲いました。本市では、鞍谷川、河和田川、天神川が氾濫し、片上地区、北中山地区、河和田地区を中心に浸水被害が発生しました。被害は、死者1名、負傷者13名、家屋は全壊4棟、半壊44棟、一部損壊80棟、床上浸水352棟、床下浸水629棟となり、被害総額約112億円という甚大な被害を受けました。



濁流に呑み込まれる河和田町中心部

(大門 優氏撮影)

情報伝達手段

がない。発生後の対応の遅れ。など、さまざまな課題がありました。その教訓から、防災行政無線の整備、防災緊急情報メール配信サービスの提供、ボランティアセンター立ち上げ訓練や避難所開設訓練など、被災地での受け入れ体制の迅速化と強化、防災リーダーや防災士の養成を通じた地域全体の防災力向上を図ってきました。

自分の命は自分で守る、自分たちの街は自分たちで守るの意識が高まり、地域を挙げて防災訓練の実施、要配慮者登録制度の制定など自助、共助の強化の取り組みが進んでいます。

### (Q) 福井豪雨以来、河川改修の進捗状況は

**(A)** 浅水川は、日野川合流点から穴田川合流点までの区間の河川改修が完了しています。また、鞍谷川は平成28年度に服部川合流点までの区間を完了しました。河和田川は鞍谷川合流点から落井町までの区間は整備済みです。それより上流の天神川合流点までの区間は、河川整備計画に位置づけられており毎年、県への重要要望事項として河川改修の事業着手を要望しています。現在、県では事業化に向け地元協議に着手にしています。引き続き県と市が連携して早期事業化に向けて邁進していきます。また、福井豪雨以降の土石流対策として、現在、実施中も含め、砂防堰堤27基、また治山堰堤20基を整備しました。



椿坂町の谷に作られた砂防堰堤

河川の浚渫について現在、県では防災、減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策において日野川、浅水川、鞍谷川を中心に立木伐採や浚渫を実施しています。河和田川、天神川についても、地元からの御要望をいただき、浚渫を実施していますが、引き続き浚渫の実施を県に対し要望していきます。

### (Q) 中小河川にも配慮したハザードマップの見直しをするのか

**(A)** 福井県内の21河川の想定し得る最大規模(概ね千年に一回)の降雨を想定した浸水想定区域図が公表されました。本市では、日野川、浅水川、鞍谷川、吉野瀬川の4河川

に加え、河和田川や穴田川などの全河川についても、来年(2020年)の夏をめどに浸水想定図が公表されることになっています。また、市が管理する論手川、赤川、神通川、石生谷川、青野川の準用5河川についても、浸水想定区域図を作成したいと考えており、国、県、市の管理する河川のそれぞれの浸水想定区域図を重ね合わせ、計画規模と最大規模の浸水想定区域図を作成し、令和2年度中にハザードマップの更新をしたいと考えています。



河和田川と天神川の合流点に堆積した土砂

### (Q) 現在の日野川と浅水川、鞍谷川、河和田川の堤防はどれぐらいの水量に耐えられる設計になっているのか

**(A)** 日野川の鯖江区間は現在、概ね50年に1回程度の確率で発生する降雨を流下させる能力があります。また、浅水川、鞍谷川は、概ね30年に1回程度の降雨に耐える能力で整備されています。河和田川は、概ね30年に1回程度の降雨に耐える能力で整備する予定です。現在、河川改修の事業化に向け、地元との協議に着手したところです。

### (Q) 上流にあたる越前市や南越前町での田んぼダムの整備状況は

**(A)** 鯖江市は平成30年度末までに、1097ヘクタールの田んぼで整備を完了しており、整備率は55%です。残る田んぼについても、関係者の御理解を得ながら、引き続き整備していきます。

上流に当たる越前市では平成30年度末までに約89ヘクタールが整備されています。また、南越前町では、残念ながら取り組まれていません。今後とも、越前市と南越前町に対し、働きかけを強化していきたいと考えています。

**あとがき** 日本は一昨年と昨年の2年連続で大変な水害に見舞われました。多くの種類の自然災害がありますが、鯖江でも一番心配されるのは水害だと思います。今年こそは大きな水害に見舞われないよう祈るばかりです。

一般質問では質疑応答で文字数が約2万にもなります。議会報ではほんの一部しかお知らせできません。このレポートでは6千文字ほどですが、それでも、少しでも多くお伝え出来ます。目を通していただければ幸いです。